慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	高等学校の中国語授業における辞書引き学習導入実践 : 紙の辞書とオンラインツール活用の試み
Sub Title	Report on the introduction of the JB (jishobiki) model to Chinese language classes at senior high school : making use of paper dictionaries and online tools
Author	荻野, 友範(Ogino, Tomonori) 吉川, 龍生(Yoshikawa, Tatsuo) 深谷, 圭助(Fukaya, Keisuke)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.18, (2021.) ,p.41- 66
JaLC DOI	
Abstract	This practical report describes the background behind the introduction of the JB (Jishobiki) model to Chinese language classes for third-year students at Keio senior high school, also describing the procedures used. The model's effectiveness and potential areas for improvement were analyzed on the basis of data collected before and after the introduction of the model using a rubric and free-response statements from the participating students. Although the JB model had previously been introduced to classes for primary school students whose first language is Japanese or English, this project was a first attempt to introduce the model to a class of senior high school students studying a second foreign language, in this case Chinese, and the smooth introduction of the model was the first challenge to overcome. The use of online tools presented a further issue, as the model was introduced to the students during the covid-19 pandemic. The focus of the trial was to assess whether the adoption of techniques advocated under the model lead to improved metacognitive skills, such as autonomous learning and application to other subjects. The analysis of the rubric and free-response statements showed that the results were generally in line with expectations.
Notes	調査・実践報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20210000-0041

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高等学校の中国語授業における辞書引き学習導入実践

――紙の辞書とオンラインツール活用の試み――

荻野友範
吉川龍生
深谷圭助

Abstract

This practical report describes the background behind the introduction of the JB (Jishobiki) model to Chinese language classes for third-year students at Keio senior high school, also describing the procedures used. The model's effectiveness and potential areas for improvement were analyzed on the basis of data collected before and after the introduction of the model using a rubric and free-response statements from the participating students.

Although the JB model had previously been introduced to classes for primary school students whose first language is Japanese or English, this project was a first attempt to introduce the model to a class of senior high school students studying a second foreign language, in this case Chinese, and the smooth introduction of the model was the first challenge to overcome. The use of online tools presented a further issue, as the model was introduced to the students during the covid-19 pandemic.

The focus of the trial was to assess whether the adoption of techniques advocated under the model lead to improved metacognitive skills, such as autonomous learning and application to other subjects. The analysis of the rubric and free-response statements showed that the results were generally in line with expectations.

はじめに

外国語学習において、辞書は最も基本的なツールの一つと言える。学校で初めての英語の授

業が始まるとなれば、どの辞書を買おうかという話にもなる。大学でも、毎年４月には様々な言語の授業で辞書のことが話題になっていることだろう。教員として自分自身が新年度の授業を始める時のことを想像してみても、毎年の授業の早い段階で辞書についての説明をしていることに気づく。

辞書に関する情報は、外国語を学ぶ上での基本情報とも言え、試しにインターネットで何かしらの言語の「辞書・紹介」と検索をしてみれば、名だたる大学のサイトにある辞書案内に始まり、書店や生協、辞書を出している出版社のサイト、まとめサイトや個人ブログに至るまで、ここで全てを挙げるのは到底不可能なほどの情報にあふれている。

そうした辞書案内の中には、様々な形で紙の辞書の有用性を説くものもある[1]。しかし、紙の辞書をどう使えばその有用性を引き出すことができるのかを説明したものは少ない。それはおそらく辞書はただ引けばよいのであって、とりたてて説明は要らないだろうということによるのだろう。また、言語学習の上達の秘訣として紙の辞書を読むことを勧めるものも少なからずあるが、どう読んだらよいのかを説明しているものは少ない[2]。これも辞書を読むのに説明も何もないだろうということなのかもしれない。

そもそも、インターネット上の情報を槍玉に挙げる前に、かつての自分自身の授業を思い出してみても、紙の辞書は大事だ、紙の辞書を読むのだ、と力説していたことは確かだが、どう大事なのか、どう読めばよいのかということに時間を割いて解説し、継続的な取り組みを行った記憶はない。つまり、極めて逆説的で皮肉なことに、辞書はあまりに自明なほどに重要なゆえに、授業の中でむしろないがしろにされてきたわけだ。誰でも引けると思われてきた辞書は、授業で扱うものというよりも、自学自習のお供と考えられてきたと言えるかもしれない。分からない言葉は、家で辞書を引いておけよ、という具合である。授業中に単語の意味を慌てて辞書で引く学習者がいたら、予習が不充分と捉えて不機嫌になる教員すらいるかもしれない。

しかし、当該言語に熟達した教員はともかく、学習を始めたばかりの学習者にとっては、辞書を引くこと、ましてや読むことは、実はそれなりの困難を伴う。中国語について言えば、紙の辞書はピンインが分からないような場合には部首や総画、あるいは音訓の索引でその字を見つけなければいけないし、さらに辞書を引くのではなく読むとなった時に、何に着目して読んでいけば良いのかもはっきりせず、いきなり小説のように感情移入して時を忘れて読んだなどという状況はまず考えられない。辞書はどうやって使うのですかなどと質問したら怒られそうで気兼ねもするだろう。

本授業実践は、その重要さゆえに逆に空白地帯となってしまっていた感のある辞書の使用について、辞書引き学習法の考え方を高等学校の中国語授業に導入し、オンラインツールと連動した学習パッケージの確立を目指して行ったものである。高等学校での実践としたのは、初等・中等教育の国語ですでに学習法として確立している辞書引き学習を、同じく初等・中等教育段

階の初習外国語科目に応用する実践研究の一環として計画されたからである。英語に関しては、本格的な学習が始まる中学校1年生を中心に導入実践を進めているが、中国語の場合は高等学校段階から科目が設定されることが大半であることから、高等学校での実践とした。また、高等学校の中国語においては、専任教員でない教員が単独で担当していて、授業時間数も限られている場合が多いことから、極力授業時間を消費しない形で、導入のハードルが低く、無理なく続けられる学習パッケージの確立を目指すこととした。オンラインツールとの連動という意味では、全てのプランを実行できたわけではないが、まずは辞書引き学習を高等学校の中国語の授業の文脈にしっかりと位置づける取り組みを行い、学習パッケージとして完成度を高めていくための最初のステップとすることを目指した。

なお、辞書引き学習の導入実践は大学の中国語授業でも開始しており、最終的には学習方略の上での高大連携という側面からの分析も行っていく予定である。

1．授業実践の背景と目的

本授業実践は、すでに国語（日本語）や英語で実践が行われている言語学習方略モデルの中国語での応用と、授業実践が直面せざるを得なかったコロナ禍での授業という状況を背景とし、導入の実現可能性と持続可能性を備えた学習パッケージを構築できるかどうか確認することを目的の一つとした。また、学習者に及ぼす影響や効果については、知識・技能のレベルにとどまらず、メタ認知能力の観点から学習者の中でどのような広がりや深まりがあったかを、ルーブリックや自由記述アンケートから見取ることも目的とした。こうした背景や目的について、本章で詳述していく。

1.1．辞書引き学習

本授業実践の背景となっている言語学習方略モデルは、辞書引き学習である。辞書引き学習は、任意の箇所から辞書を読み既知の単語を見つけ、通し番号を付した付箋紙にその単語を書き掲載ページに貼り付けていくことを手始めに、未知の単語についても同様に付箋紙を貼っていくものである。1990年代に深谷圭助によりに開発され、日本の小学校教育で広く知られるようになっている言語学習方略と言える[3]。近年は、JB model（JB モデル）として、日本の国語教育の文脈を離れ、複数の国や地域、複数の言語での導入実践を進めている[4]。

これまで、国語（日本語）以外の言語では、英語について日本国内と英国、シンガポールで実践が行われてきていたが、これを日本国内の第三言語（第二外国語）教育の文脈に応用してみようというのが、この授業実践である。広く普及している国語での取り組みは、修業年次が低いとはいえ、いわゆる母語の辞書で行われているものであり、既知の単語を辞書で探してゆくという作業がスムーズに導入できている面があった。それに対して、英語や中国語では、非

母語話者の学習者を対象としており、既知の単語を探していくという導入の活動が上手く機能するのかというのが、授業実践における最初の課題であると言えた。この課題については、英語ではいわゆるカタカナ言葉をヒントにさせることでスムーズな導入ができることが分かってきた。

中国語に関しても、字体の差こそあれ、同じく漢字を使用している点に注目することで、導入しやすくできるのではないかと考えられた。日本語でも使われている漢字の熟語を既知のものとして見つけさせ、その意味が日本語と同じかどうか、中国語ではどのような発音になるのかなどの点を確認させ、その作業を通じて辞書を読ませ、辞書引き学習のスキームに則り番号をふった付箋に当該の言葉を書き、辞書に貼っていくという方法である。この漢字を切り口にするという方法が果たして機能するのか、どのようにすればよりスムーズな導入につなげられるのかという点が、本授業実践の目的の一つであった。

1.2. オンラインツール

新型コロナ感染症の影響が続く中での授業実践となったことで、オンラインツールを併用した対応が必要となり、それが新たな課題として浮上した。しかし、コロナ禍をきっかけに考慮に入れることになったオンラインツールは、一つの授業パッケージとして考えていく時に、むしろプラスになる面が多いことが分かってきた。とりわけ、Google フォームを使った成果や情報の回収は、単なる利便性を超えて、授業実践の実現可能性や持続可能性にも関わる大きな意味を持ちうることに気づいた。

具体的には、当初紙媒体での実施を予定していた（実際に一部紙媒体での実施もした）ルーブリックや辞書引き日記[5]などを Google フォームで回収することで、実施する側の回収後の整理にかかる手間を大幅に減らすことが可能になり、現場の教員の負担をあまり増やさずに辞書引き学習を授業計画の中に組み入れやすくなるという期待が持てた。また、導入授業後の取り組みにおいても、学習者が授業時間外に見つけた言葉を Google フォームで提出させ、その結果をスプレッドシートで複数の教員が共有してコメントするということが可能になり、授業時間をあまり消費せず、直接の担当教員以外も参加して実践を続けていく見込みがたった。

こうしたことから、この授業実践では、オンラインツールを活用した継続的な活用がプラン通りに運営できるのか、改善すべき点はどこか探ることも、その目的の一つになった。

なお、オンラインツールに関しては、さらに一歩進めて Google フォームで回収した学習者が探してきた単語を、Quizlet[6]を使って単語カードやゲームにし、その後に扱った単語に関して小テストをするというプランも考えたが、まずは Google フォームを使って基本的な授業実践を継続できるかの検証を今回の中心に据えた。

1.3. メタ認知能力につながるもの

既述のように、小学校の国語教育における辞書引き学習が高等学校の中国語という授業空間で機能するか、オンラインツールを活用して円滑にフィードバックができるかなど、授業運営の観点をも視野に、導入可能なパッケージとして検証し、提示できれば、それである程度の目的は達成されたと言えるし、効果を測定したり、課題点をフィードバックしたりすることも難しくはない。

加えて、教授法・学習法の一つである以上、そもそも学習者にどれだけメリットがあるのかという点が、最重要ポイントになってくる。しかし、教科書を用いた授業を主とし、辞書引きを補助的な位置づけで実践する取り組みでは、学習者の中国語能力の伸びが何に由来するのか、どの部分が辞書引きに影響を受けているのかを同定するのは困難が伴う。もちろん、ごく単純な知識・技能として中日辞典の使い方が分かったというようなものは、この授業実践による成果だと言えるのかもしれないが、教科書を用いた授業でも向上が見込まれる全般的な語彙力は、何によって伸びたのかということは判然としない。「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」で謳われている資質・能力の３つの柱、すなわち「(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。／(2) 思考力，判断力，表現力等を育成すること。／(3) 学びに向かう力，人間性等を涵養すること。[7]」のうち、「知識・技能」の中の細かな辞書の使い方についてくらいしか明確に測定することはできないようにも見える。

効果測定が難しいということもそうだが、そもそも辞書引き学習の導入で目指すものは、単なる語彙力アップではない。中国語で言えば、日本語の中の漢字と比較することにより中国語の運用能力において応用性を高めることであり、さらに中国語という教科を超えて他の言語や古文・漢文など日本語・中国語の古典などとも比較しつつ、言語のあり方について学習者が主体的に目を向けるように仕向けることである。それは、学習指導要領で言えば思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養へつながり、メタ認知能力・メタ言語能力を高めるということである。スポーツで喩えれば、球技においてどうやってボールを投げたり蹴ったり打ったりするのかという個別具体のレベルではなく、体幹を鍛えて個別の競技に応用できる高い身体能力を目指そうというのにも似ている。しかし、そうした能力は将来的にその能力が効果を発揮するというような場合も多く、客観的な測定が難しい面がある。野球なりサッカーなりの試合で勝敗をつけることはできるが、そこに出場していた選手たちを基準も定かでない体幹の強さや将来どれだけ選手としての能力が伸びるかなどで比較することが難しいのと似たようなものだ。

そこで、本実践では、学習者自身による、辞書引き導入前・導入直後・年度末のタイミングでのルーブリック評価と、自由記述による振り返りを分析することで、学習者の意識や認識、態度などにおける変化を見取ることによって評価すべく、実践を設計していくこととした。学

習者の意識に何らかの変化が起き、それが教員側の意図したものであるのか、またその変化が持続したり他の変化につながっていったりするものであるのか、そうしたものをすくい取ることで実践を評価することも、大きな目的の一つとした。

2． 実践の内容

本実践の具体的な活動について説明を加える。なお、本文中で示しづらい関係資料については、文末に一括して提示してある。掲載の都合上、実際に用いたものと書式などが異なることもある点をご了承いただきたい。

2.1． クラスの状況と事前準備

今回の実践の対象となったのは、全日制の男子校である慶應義塾高等学校３年生の中国語授業である。基本的に２年次に１年間週２コマ（１コマ50分）の中国語を学習した後、３年次でも継続して週３コマ（１コマ50分）中国語を学習している生徒が対象となっている。ただし、履修者の中には、対象の授業とは別に何からの形態で中国語学習歴がある者、ネイティブスピーカー・ニアネイティブスピーカーも若干名含まれている[8]。３年次の授業は日本人教員と中国語ネイティブ教員のリレー形式で２クラス設置されており、クラス人数はそれぞれ23名と24名となっている。

中国語辞典（中日辞典）は、学校側で揃えることはできなかったため、研究プロジェクトの側で提供（貸与）することとし、小学館の『中日辞典 第３版』を必要数用意することとなった。50冊近くを購入・保管するのは現実的に負担も大きいため、教員分も含め25冊購入して１クラスずつ時期をずらして実践を行うこととした。

中日辞典として小学館版を採用した経緯・理由は以下の通りである。辞書を読ませ日本語の熟語と似たようなものを探させたり、未知の字や熟語を探させたり、意外な意味や類義語について確認させたりといった作業をする都合から、コンパクトタイプの辞書では情報量的に物足りなさがあり、だからと言ってあまりに大きな辞書では高校生が持ち歩くには不便であることから、中型辞典が候補に挙がった。具体的には、講談社・小学館・白水社・東方書店のものが候補となったが、例文にもピンインがついていることから最有力と考えた講談社版が版元品切れとのことで、収録語数や改訂のタイミング（近年改訂されているか）、類義語やコラムなどの記事の充実度などから検討した結果、今回は小学館版を使うこととした。

コロナ禍で導入授業を行う時期も二転三転したが、前期に１クラス、後期にもう１クラスで実施するということで準備を進めた。前期に行ったクラスでは、紙媒体で導入授業前と導入授業直後のルーブリック及び自由記述アンケートを行った。しかし、新型コロナウイルスの感染が爆発的に広がる中、後期授業での取り組みが対面で予定通りできるのかなどの懸念や、実際

に紙媒体で実施してみて、逆にオンラインの方が後の処理がしやすいという感触を得たこともあり、すでに述べたようにオンラインツールを使ったプランを導入することとした。

ルーブリックや自由記述の回収は取り回しのしやすさから Google フォームを使用することにした。また、生徒が探し当てた単語を Google フォームで提出させる取り組みも計画したが、その際に PC やタブレット、スマートフォンなど生徒個人のデバイスでの中国語入力が必要となるので、Windows・Mac・Android・iOS での中国語入力ガイドも用意した。ピンインの入力については、アルファベットの上に声調記号が乗った形式は、様々なデバイスでの入力法を一つひとつ説明するのはやや煩雑であったため、アルファベットと音節の最後に数字で声調を入れる形式で対応することとした。

なお、ルーブリックについては、紙媒体で準備を進めていた段階から、本授業実践が主体的に辞書を活用しようという姿勢やメタ認知能力の涵養などを目的の一つとしていることが伝わるように記述文を作成した。Google フォームでのルーブリックには、紙媒体の記述文（図 1 参照）をそのままコピーして使用した。

第（　　）週　　月　　日（　　）～
月　　日（　　）　　年　　組　　番　氏名：

JBモデル（辞書引き学習）に関するルーブリック

評価項目＼評語	S	A	B	C
辞書の利用： 紙の中国語辞書のひき方 【知識・技能】	使い方は完璧にマスターしている 記入日①　　②	言葉の意味を調べることはできる 記入日①　　②	少しアドバイスを受ければ言葉の意味を調べられる 記入日①　　②	基本的な利用法の説明が不可欠である 記入日①　　②
「辞書引き」とは： 辞書を読む「辞書引き」の理解 【知識・技能】	「辞書引き」を完全に理解し、学習の中で活用できる 記入日①　　②	「辞書引き」がどのようなものかは理解している 記入日①　　②	教員に確認すれば「辞書引き」のやり方を思い出せる 記入日①　　②	「辞書引き」がどのような活動か理解できていない 記入日①　　②
辞書の利用姿勢： 中国語学習における紙の辞書 【思考力・判断力・表現力】	分からないことを自分で見つけ知識を増やしていける 記入日①　　②	分からないことに出会ったら意味を調べることができる 記入日①　　②	必要に迫られれば利用できる 記入日①　　②	辞書を使うのはなるべく避ける 記入日①　　②
中国語辞書を活用する場面： 電子辞書・ネット辞書など含む 【学びに向かう力・人間性】	校外・家庭でも自然と日常の学習で利用できる 記入日①　　②	校内での授業や活動で利用できる 記入日①　　②	先生の指示を受けて使用できる 記入日①　　②	積極的に使う気にはなれない 記入日①　　②
中国語辞書の他領域での応用： 自立した学習者としての利用 【学びに向かう力・人間性】	中国以外の社会・文化や、他の言語とも関連付けて応用できる 記入日①　　②	中国の社会や文化について知るツールとしても活用できる 記入日①　　②	見つけたり調べたりした言葉の周辺に注意を向けられる 記入日①　　②	語義の確認には使用することができる 記入日①　　②

※該当する項目の記入日の欄に、「月/日（例：5/28）」のように日付を書き入れてください。
※記入日①は研究授業の前の自己評価、記入日②には事後の自己評価を記入してください。

図 1　紙媒体のルーブリック

2.2. 導入授業

前期実施クラスの導入授業は2021年６月15日（火）、後期実施クラスは同年10月８日（金）に、各２コマ連続の授業で行った。前期実施時には、慶應義塾高等学校の国語科の教諭２名も参観していて、授業後に貴重なフィードバックを頂いた。活動内容を少し盛り込みすぎたため、後期実施時には活動内容をスリムにして余裕持って活動の総括まで行えるようにした。ここでは以下に、後期実施時の指導略案を引用する。なお、同日使用した PowerPoint ファイルについては、文末に付録として収めたので参照されたい。

慶應義塾高等学校・「辞書引き」指導略案（中国語／２限連続）

・第１時限目

時	教師の活動・生徒の活動	指導上の留意点
導入10分	１．本時の活動内容・タスクを明示し、生徒の関心を引き寄せる 教師：自己紹介をし、いくつかの言葉について辞書を使い、日本語との類似点・相違点があることを示す 生徒：付箋のナンバリングをする	・机の上に辞書と付箋、筆記具があるか確認をする ・付箋のない生徒に与える ・付箋のナンバリングは、15枚分でよい
展開①15分	２．個人の作業をする 生徒：付箋15枚を目標に辞書を読み、気に入った言葉を１つ余分に付箋に書いておく 教師：まずは、日本語と同形のものを中心に見ていくように促す。机間巡視して、付箋の数や見つけた単語をチェックしながら、褒め、励ます	・辞書を“ひく”という言葉は極力使わず、辞書を“読む”と表現するようにする ・何枚貼ったのか、どんな言葉を見つけたのかと声をかける
展開②15分	３．グループ作業をする 生徒：気に入った言葉を持ち寄って、自分の選んだ言葉を紹介し、グループ特選の１枚を選ぶ。発表時、選んだ理由を説明する担当を決めておく 教師：グループの１枚を選ぶ過程で、候補に挙がっている言葉について適宜知識の補足や発音の修正を行う	・他の生徒がなぜ選んだのかをよく聞くように促す ・発音の指導を適宜行う
展開③５分	４．発音の練習をする 生徒：お互いの発音をチェックしあう 教師：机間巡視して、発音をチェックする	・発音指導しつつ、辞書の同じ音の言葉などについて、適宜説明をする
まとめ５分	５．次の時限に向けての案内をする 教師：本時の活動を振り返らせ、２時限目の活動の確認をする 生徒：本時の活動をふり返り、学習の上での留意点について理解するようにする	

・第２時限目

時	教師の活動・生徒の活動	指導上の留意点
導入5分	１．本時の活動内容を確認 教師：聞き取り用の用紙を配布する 生徒：活動内容を理解する	・活動の内容を理解していない者がいないか確認する
展開①30分	２．発表会を行う 生徒：【発表者】グループ全員立ち、全員がグループ特選の１語を読み上げ、その言葉の意味や関係する知識を披露する／【聞き手】聞いている側のグループは、聞き取り用紙に、読み上げられた言葉のピンイン・簡体字を書き取り、辞書で意味を確認する 教師：適宜発音の修正をする／辞書で該当の箇所を見てみるように指導する	・選んだ理由や関係する知識について、よく話を聞き、自分でも手を動かして確認するように促す
まとめ15分	３．振り返りをする 教師：辞書を読む学習法の紹介をする。ルーブリック、自由記述アンケートの記入（いずれもGoogleフォーム）について説明をする 生徒：ルーブリックに記入しながら本時の活動をふり返り、学習の上での留意点について理解するようにする案内する ４．今後の活動について説明する 教師：Googleフォームを使って、辞書引きで見つけた言葉を提出する方法を案内する。２週間ごとに教員からフィードバックをする。フィードバックを欲しい“厳選単語”には、チェックをするように指導する。複数厳選してしまった場合は、一つだけ教師が選んでコメントする	・紙の辞書は引くだけのものではなく、語彙を音声とともに構造化していくものであることを理解させる ・パーツの組み合わせで語彙が増加することを説明する（他の言語でも同じ）。 ・何か気になる言葉・面白い字などがあれば、その字と同じ音の漢字の項目をすべて読むことを推奨し、本時の取り組みが日頃の学習でも継続できるように促す

導入授業冒頭でこれから行う活動の説明をする時や、生徒が個人作業を始めたばかりの時期には、知っている形の漢字や言葉を見つけて語釈をよく「読む」ように促すことが重要である。辞書は分からない言葉の意味を調べるために引くものだという思い込みをなくし、何でも良いので知っているものを探して読むことが大事であると、繰り返し説明するように留意した。そして、特に今回の導入授業では、日本語と同じ漢字を使った熟語に着目して意味の違いを確認するように促し、それに慣れてきたら自由に見出し語と語釈を見て面白そうな言葉を見つけるように指導した。日本語との関係を最初の切り口としたのは、いきなり「気になるもの」「面白そうなもの」を探すようにと言われてもやり方がつかみづらいと判断したため、まずは一番なじみのある日本語との関係性を起点として、そこから辞書を読み、面白い言葉を見つけてい

けるように誘導するためである。辞書は手元にあるがどうしたらよいか分からないという状態にさせないために、何か生徒自身と深い関わりのあるテーマなどを設定したほうがスムーズに作業を始められる。例えば、辞書を読んでいって料理の名前を探そうとか、動物の名前を探そうといったテーマを設定するのでも良い。なお、辞書を「引く」という言い方は極力避け、辞書を「読む」と言うようにし、この活動こそが辞書を読むことに他ならないのだということを強調するようにした。

グループワークでは、他のメンバーが選んだ単語を発音し説明するのを注意深く聞くこと、そしてその単語を自分の辞書で確認するように促した。それによって、自分では気づかなかった言葉を知り、自分とは違う視点に意識的になるように誘導するようにした。グループワークをこの段階で採り入れたのは、他のメンバーとの対話的な双方向の活動を通じて、個人活動だけでは達成できないような気づきをもたらすことを期待してのことである。また、自分が選んだ言葉について、理由という形で自分なりのストーリーを語ることで、その言葉が内的に文脈化され定着しやすくなることを狙ったものでもある。

総括の部分では、中国語辞書がどのような構造でできているのか説明し、辞書を読むとはどういうことかについて再確認した。そして、よりメタなレベルで、辞書を読むという行為が他の言語を学ぶ時にも活用できること、言語がどのようにできているのか、言語学習とはどういうことかなどに目を向ける契機にもなり得ることを説明し、単に意味を調べるだけではない辞書の持つ可能性を説明した。

導入授業後の生徒のリアクションについては、前期授業ではルーブリックと自由記述、辞書引き日記フォーマットを紙媒体で配布し次回授業で回収した。後期授業においては、ルーブリックと自由記述の Google フォームのリンクを生徒に送信して、期限までに回答させる方法を採った。

2.3. 事後の活動とルーブリック

事後の活動については、前期実施クラスではコロナ対応などによって当初計画が崩れてしまい、夏休み前までの自主的な活用にとどめることにした。辞書は学校に置いて帰ってもよいし、自宅に持ち帰っても良いことにしたが、学校に置いて帰った生徒が多かったようである。夏休み前に返却させ、後期の授業では自分の持っている辞書（紙の辞書とは限らない）での自主的な取り組みを促すにとどまった。

後期実施クラスでは、2021年10月８日（金）の導入授業の後、10月22日（金）に生徒に提出リンクの送信とアナウンス、10月26日（火）提出締切で、辞書を読んで見つけた言葉を提出させる活動の第１回目を行った。見つけた言葉はいくつでも提出可能としたが、その中でとりわけ気に入っている単語を「特選」の単語として別リンクで提出させ、その単語について担当

者で分担してコメントすることにした。生徒から Google フォームで回収した単語は、スプレッドシートにまとめて、各担当者に割り振った上でコメントを書き込んだ。コメントをつけたものは、プリントにまとめて教室で生徒に配布し、他の生徒が書いたものとそのコメントを含めて読ませ、活動の振り返りとした。（表 1 参照）

その後、第 2 回を以下のようなスケジュールで行った。2021年12月10日（金）回答リンクの送信とアナウンス、12月13日（月）提出締切、12月27日（月）教員コメント配信（授業では扱わず、各自閲覧させる）。第 3 回は、冬休みの小課題という扱いにし、12月17日（金）回答リンクの送信とアナウンス、2022年 1 月 7 日（金）提出締切、 1 月14日（金）教員コメント配付（授業内配付、いくつか取り上げコメント）、という流れであった。

コメントの返却は、配信して各自閲覧させる形で時間をかけずに行うことも可能であったが、教室で印刷物として配布し説明を始めると生徒からのリアクションもあり、10〜15分ほどの時間を取ることもあった。生徒自身が選んだ単語についてやりとりが行われるこの時間は、重要であるように思われた。

なお、実際に教室で導入授業から活動を継続した立場から言うと、生徒に単語を提出させるのは、紙媒体でやるのは避けた方がよい。生徒にとっては、スマートフォンで気軽に単語を提出でき、活動に参加するハードルが大幅に下がり、教員の側からしてもスプレッドシートなどで簡単に提出されたものを共有でき、コメントを書き込むのが容易な上、最終的に返却・配布用のプリントを作成するのも容易である。今回は紙媒体のコメント付き返却プリントを作成したが、プロジェクターで示すことも選択肢の一つであり、状況によっては完全にオンライン対応することも可能である。

表 1　生徒の選んだ単語と教員のコメントの例

shìpín diànhuà	视频电话	テレビ電話	コロナ禍で“视频”はますます身近な言葉になりました。“视频”はもともと辞書にあるように「周波数」の意味ですが、現在は「短い映像、動画」の意味で使われることがほとんどです。ZOOM のような Web 会議システムは“视频会议”と言います。
jiào	教	宗教	“教”からまず想起されるのは文字通り「教（おし）える」という基本義ですが、「…教（宗教）」という時の「教」でもありますね。ちなみに、「…教（宗教）」という時や「教（おし）える」という意味が名詞的に使用される時は“jiào”で、「教（おし）える」と動詞的に使用される時は“jiāo”となります。なお、“教（jiào）”は（付属形態素のため）単独では使えず、単語を構成する要素として使われます。

3． 結果の分析

本章では、授業実践の前後で行ったルーブリックや自由記述を主要な分析対象として、本授業実践の具体的な効果について検討する。2021年度前半に取り組んだグループと、後半に取り組んだグループに分かれるため、まずはルーブリックの結果について両グループ間の比較を行い、それに続いてより継続的な取り組みを行った後半のグループの中での差異について検討する。そして、自由記述の内容について全般的に検討していく。

3.1． グループ別の分析

まずは、ルーブリックの結果について、前半グループと後半グループでどのような変化を示したのかを分析していく。ルーブリックは「S・A・B・C」の評価基準で行ったが、それをそれぞれ「５点・４点・３点・２点」に換算して、数値化した。導入授業前・導入授業直後・年度末で実施しているので、それぞれの回について生徒の回答の平均を出し（表２参照)、表２の数字から平均値の遷移が分かるようにグラフを作成した（図２参照)。

表２　グループ別・時期別の平均値

	辞書の利用：紙の中国語辞書のひき方	「辞書引き」とは？：辞書を読む「辞書引き」の理解	辞書の利用姿勢：中国語学習における紙の辞書	中国語辞書を活用する場面：電子辞書・ネット辞書など含む	中国語辞書の他領域での応用：自立した学習者としての利用
前半組_事前	2.46	2.17	2.92	3.17	2.33
前半組_事後	3.96	4.04	3.82	4.04	3.26
前半組_最終	3.83	3.63	3.63	4.08	3.08
後半組_事前	2.22	2.57	2.74	3.30	2.30
後半組_事後	4.00	3.95	4.18	4.00	3.55
後半組_最終	4.32	4.32	4.18	4.50	3.86

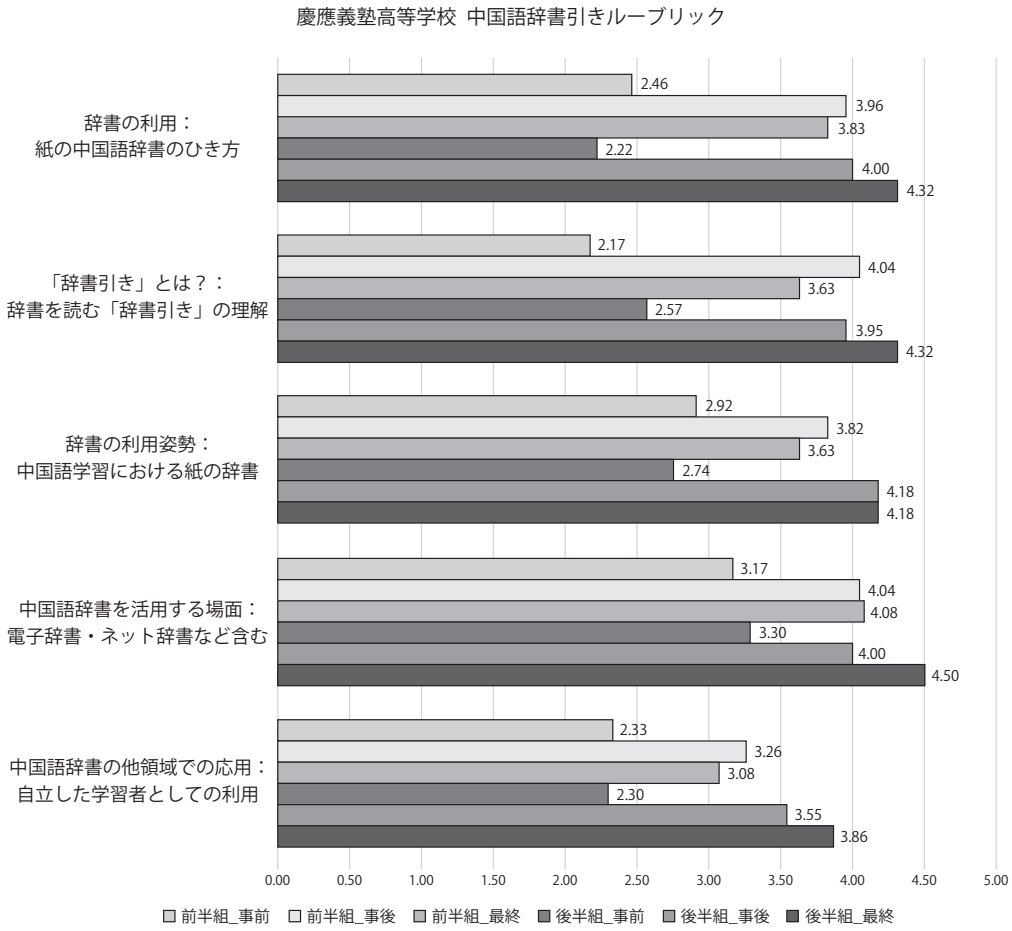


図２　グループ別・時期別の平均値

まず前提として、どの項目についても、前半グループ・後半グループともに導入授業以前には数値が低く、前半グループのほうが高い項目、後半グループのほうが高い項目がまちまちではあるが、特にどちらかのグループがはじめから高い値を示していたわけではなく、ほぼ同じように低い値であったと言ってよい。

そして、両グループに共通して一目瞭然なのは、全項目にわたって当初は数値が低かったものが、導入授業をへて大きく平均値を上げている点である。紹介のための授業と活動をしたため当然と言えば当然であるが、知識・技能のレベルにとどまらず、より抽象度の高い項目についても大きく数値が伸びており、辞書引きの取り組みが目指すところは、ある程度生徒にも伝わったものと考えてよいだろう。後半の導入授業は、前半の授業での反応を踏まえて活動内容を軽減し、総括の説明を少し手厚くするような変更もしているが、ルーブリックの結果からは

あまり大きな影響が出ているようには見えない。

前半グループ・後半グループで差がはっきり出ているのは、学年末の最終のデータである。コロナ禍対応などで導入授業の後にうまく継続的な活動ができないまま終わってしまった前半グループは、最終のルーブリックで５項目中４項目において平均を下げてしまっている。一方、短期間ではあるが、導入授業後に活動を継続できた後半グループでは、５項目中４項目で平均が上がっている（残り１項目も変化なしにとどまって下がってはいない)。ここから指摘できるのは、導入授業で分かった気になっても、多少なりとも継続的に活動が行われないと定着していかないという点である。

すでに第２章で説明したように、今回後半グループが取り組んだ導入授業後の活動は、オンラインツールを使うことで授業時間をほとんど消費せずに行うことも可能である。生徒が提出した単語にコメントする時間はあれば望ましいが、数分だけでも返却して振り返ることもできる。既存のカリキュラムに辞書引きを導入していく上では、授業時間をあまり消費せずに活動を行うことが導入のハードルを下げる要因になると思われるが、オンラインツールを使用した活動継続は、導入のしやすさと効果の大きさの観点から、サプリメンタルな教授用パッケージとしての辞書引き学習にとって、非常に重要な点である。オンラインツールを使用して時間と手間を省きつつ、学習者の関心を維持し、辞書を利用することを習慣化していくこともできると考えられる。

３.２. グループ内での分析

続いて、後半グループの中の変化を細かく見ていきたい。表３において、生徒１・２・12・20・22の５名の、「４. 中国語辞書を活用する場面：電子辞書・ネット辞書など含む」の項目は、いずれも事前の段階から導入授業後に自己評価が下がっている。個人のデータで事前よりも事後の方が下がっている事例は、４. 以外ではほとんど見られない。もちろん、４. の全体のトレンドも、他の項目同様に事前から事後に数値が上がるものではあるのだが、トレンドに反する事例が目立つのは、４. に特有な現象と言ってよい。

表３　後半グループ内での個別データ

	１．辞書の利用：紙の中国語辞書のひき方			２．「辞書引き」とは？：辞書を読む「辞書引き」の理解			３．辞書の利用姿勢：中国語学習における紙の辞書			４．中国語辞書を活用する場面：電子辞書・ネット辞書など含む			５．中国語辞書の他領域での応用：自立した学習者としての利用		
	事前	事後	最終	事前	事後	最終	事前	事後	最終	事前	事後	最終	事前	事後	最終
生徒１	2	4	4	4	4	5	2	4	5	5	3	4	2	3	5
生徒２	2	4	4	4	4	5	3	5	5	5	4	5	2	4	4
生徒３	2	4	4	2	4	5	3	5	4	2	4	5	2	5	5
生徒４	2	4	4	3	4	4	3	4	4	2	4	5	2	4	5
生徒５	2	4	4	2	4	4	4	5	4	3	5	5	3	4	3
生徒６	2	4	4	2	4	4	2	3	4	2	4	4	2	3	4
生徒７	2	3	4	2	4	4	2	3	5	2	4	5	2	3	4
生徒８	2	4	4	2	4	4	2	5	3	2	4	4	2	4	5
生徒９	2	4	4	2	3	4	2	5	4	3	4	5	2	3	2
生徒10	2	4	5	3	4	4	2	3	4	3	3	4	2	3	4
生徒11	2	4	5	2	4	5	4	5	5	3	5	5	2	3	3
生徒12	2	5	5	4	4	4	3	5	4	5	4	5	2	3	4
生徒13	2	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4	4
生徒14	2	4	4	2	4	4	3	4	4	3	5	4	2	3	3
生徒15	2	3	5	2	3	4	3	3	4	3	3	4	2	3	3
生徒16	2	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	2	3	4
生徒17	3	4	4	2	4	4	3	4	4	3	3	5	2	3	4
生徒18	2	−	−	4	−	−	2	−	−	4	−	−	3	−	−
生徒19	4	4	4	2	4	4	3	4	4	2	4	5	2	4	4
生徒20	2	4	5	2	4	5	3	4	5	5	4	4	4	4	3
生徒21	2	4	5	2	4	5	3	4	4	4	5	5	3	5	4
生徒22	4	4	5	2	4	5	3	4	4	5	3	3	3	4	5
生徒23	2	4	4	2	5	4	2	5	4	2	5	5	2	3	3

この現象の背景として考えられるのは、項目の説明に「電子辞書・ネット辞書など含む」と入れたことではないかと考えられる。授業の予習や試験勉強の中で電子辞書やネット辞書を活用している生徒は多く、その意味で、事前の段階で中国語の辞書をすでに活用していると判断したものと思われる。しかし、導入授業で紙の辞書とそれを「読む」という活動を経たことで、それまで自分が辞書を充分に活用できていると思っていたことが、単なる意味調べのためだけ

であったということに気づき、導入授業後に自己評価を下げたということが推測できる。４．で評価を下げたこの５名の生徒も、他の項目では評価を上げており、事後のルーブリックを全体的に低くつけたということはあり得ず、むしろ自分の辞書の使い方をよく振り返って自己評価をしたと考えたほうが良いように思われる。あまり使ったことのなかった紙の辞書に触れて、辞書という存在に対する見方が変わった可能性も指摘できよう。実際に、５名のうちの１名は、導入授業直後の自由記述で、「久しぶりに紙の辞書というものに触れて、“辞書を読む”ということの大切さを実感することが出来たと思います。ボキャブラリーを増やすのには、ただ調べたい単語を電子辞書で調べるのではなく、紙の辞書で周りも一緒に取り込むことが一番効率的だと思いました。」と回答している。

教室で生徒と接していれば、利用しやすさ、入手しやすさの点から、スマートフォンでネット辞書や翻訳機能を活用することが増えている現実を実感させられる。それは決して悪いことではなく、使える技術は使うべきだと考えるが、辞書を切り口に開かれるよりメタなレベルでの言語学習に生徒が入って行くチャンスが削がれてしまっている面もある。この４．の数値の変化は、辞書のもつ奥深さに生徒が気づき始めたことを意味するかもしれず、注目すべき点である。この点については、次項の自由記述の分析でもさらに検討していく。

３.３． 自由記述の分析

最終の自由記述は、「辞書引き学習という活動が今後の学習や社会生活においてどのように役立つか／役立てていきたいかなどを中心に、辞書引きをやってみた感想を自由に書いてください。」という形で、生徒の回答をある程度方向付ける設問とした。なお、生徒の回答（一部削除あり）は、文末に付録２として掲載してある。

自由記述で書かれたものに目を通してまず気づくのは、日本語や英語、あるいは「中国語に限らず」とか「他言語」という表現で示されている、複数の言語を関連付ける発想である。日本語と対照させることは、導入授業でも辞書を読むための切り口として話題提供しており（付録１　導入授業で使用したスライド参照）、日本語がキーワードとして出てくることは想定の範囲内であったが、導入時にはあまり言及しなかった英語や、「他言語」「別の言語」というかたちで、将来自分が学ぶ可能性のある不特定の言語においても活用できそうだとする記述が複数出てきているのは、本授業実践にとって非常に好ましいことである。例えば、「英会話を毎日やっているが外国の人と話すとき、複数言語を知っている人は話が弾みやすいのと、他言語との共通点や違って面白い点を共有でき、盛り上がるので言語を通じて文化を知ることができる。知る上で辞書は最適だった。」という回答などは、授業実践のねらいに合致した素晴らしい回答だと言える。ペーパーテストや評定には直接的に影響しないかもしれないが、学習者に獲得してほしい資質・能力が含まれていて、こうした記述から学習者の気づきを見取り個別に

評価する必要のある部分である。今回はこうした回答に直接リアクションする機会がなかったが、学習者の気づきを評価し励ますところまでを一つのパッケージとして計画できるようにすることが、次回以降の課題であると考えられた。

また、付録２は活動への参与度の選択肢で高いほうを選んだ順にソートしてあるが、参与度の高さと他の言語との関連性への注目は相関関係があるように見受けられる。この点はある種の相乗効果が出ているように考えられ、参与度が高ければ気づきが多くなり、気づきが多ければ参与度も高まる。そうした好循環の相乗効果を発揮させるためには、相乗効果を生むようなサポートが必要になってくる。生徒が見つけた単語にコメントをつけ、教員が持っている知識を加えてコメントするようなインタラクティブな活動は、好循環を生みだすための重要な要素であると言えるだろう。

その他には、インターネットやスマートフォンとの比較で、紙の辞書を評価する記述も見られた。例えば、「紙の辞書を引くことでインターネットなどで調べるときには目に入ることのない言葉を見つけられたり成り立ちが分かるので、語彙が自然と広がっていくと思った。」というようなコメントからは、実際に紙の辞書で活動をしてみて、紙の辞書の一覧性を実感している様子が伝わってくる。ただ単に紙の辞書を購入させるとか、自分で調べさせるとかだけでは、意外に気づかないところでもあり、辞書の一覧性に気づかせるような導入授業の効果もあるものと考えられる。

その一方で、参与度の低い生徒からは「重い」「使いづらい」と言った記述もなされており、「重くても」「一見使いづらくても」使い方が分かれば使いたくなるということをより分かり易く伝える工夫が必要だという反省もある。プラスの相乗効果が生まれていない状況であり、より一層辞書を活用したくなる雰囲気に生徒を巻き込んでいくギミックが必要であると言える。

また、そもそも今回生徒たちが使用した紙の辞書は研究のために貸し出されたものであり、それなりの値段である辞書を全員一律に買わせることの困難さもあり、全員分の貸出用辞書もない場合はどうするのかなど、辞書の調達における問題点も大きい。辞書の購入に関しては妙案がないものの、今回貸し出した辞書でもそれなりに「所有感」を持って取り組めたことは、教育機関が１クラス対応可能な数だけでも辞書を用意できれば、それを繰り返し使って、何年にもわたって導入授業とある程度の継続的な活動が可能であることを示せたとは言えるだろう。辞書の持つ高次の意味を理解させるだけでも大きな成果であるとは言えるのだろうが、借り物の辞書ではなく自分の辞書を買いたいと思わせるところまで学習者を惹きつけることができれば、理想的である。ただ、辞書引きの活動は辞書を買わせるための取り組みではなく、効果や意義を理解した結果として学習者が自分の辞書を手に入れ、さらに学習を飛躍させていくものであり、はじめから辞書を買わせるにはどうしたらよいかというような問いに解を与えるようなものではないことは、確認しておく必要がある。

おわりに

これまで高等学校での中国語辞書引き実践について、実践の詳細を示し、ルーブリックや自由記述の分析を行ってきた。本章では、今後の課題や計画について述べ、締めくくりとしたい。

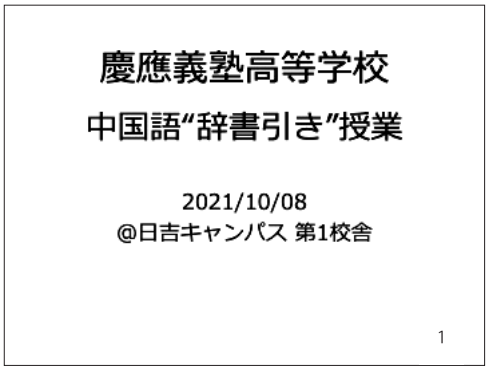
すでに指摘したように、今回の授業実践では期待以上の効果を実感できた部分もある反面、主に紙の辞書の購入しづらさや取り回しの悪さに起因する問題がどうしても出てきてしまうことが明らかになった。学習者が個人で辞書を購入し、物理的にも心理的にも学習のオーナーシップを高めてさらに学習を意欲的に進めていけるようにするには、買うだけ買わせて使うのは学習者任せというのではなく、紙の辞書を主要な教材として授業で扱うのだということを、明確に示すことができなければならないと言えるだろう。その意味でも、紙の辞書を主教材とした教育法を、どのような教員でも、どのような環境でも導入しやすいパッケージとして示す重要性が増してくる。とりわけ、高等学校における英語以外の外国語のように、授業時間数にも限りがあるような場合は、既存のカリキュラムの邪魔にならないように導入し継続できるパッケージ化された方法があれば、導入のためのハードルは劇的に低くなるだろう。

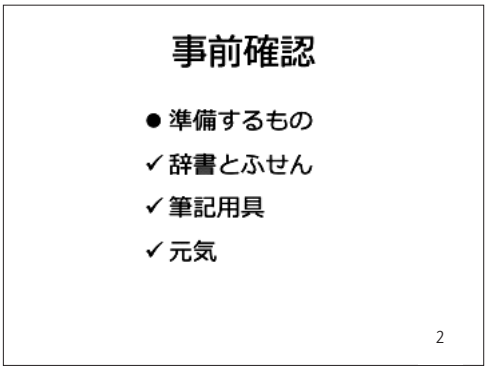
本授業実践でも、ある程度のところまでは試すことができたが、今後の計画として考えているのは、生徒が提出してきた単語について、Quizlet で自習用教材を作成して遊びながら練習させ、単語小テストを行って得点を競うような活動を採り入れる方法である。この方法はまず、教員にとって手間のかからない方法で、生徒がオンラインで提出したものをそのまま Quizlet に流し込めばよく、授業時間外に遊んで学習することが可能である点が優れている。最後のアウトプットを単語小テストとするのは、それで成績をつけたいからではなく、競い合う状況を設定することで、より積極的に辞書を使用し、Quizlet で学習する中で学習方法について自覚的に考えさせ、場合によっては学習方略において優れている生徒から他の生徒への伝授の流れを作り、グループとして積極的に学習能力を上げていく好循環を生みだすためである。定期試験などで思うように成績を残せない生徒も高得点を取ることが可能なようにすれば、苦手意識を取り除いて自信をつけさせることにもつながるし、そこで自分なりの学習方法を見つけられれば、他の科目においても応用できる部分も出てくる。この方法は、今年度も計画はしたものの諸般の事情で実践できずに終わったため、今後の実践待ちとなっている。

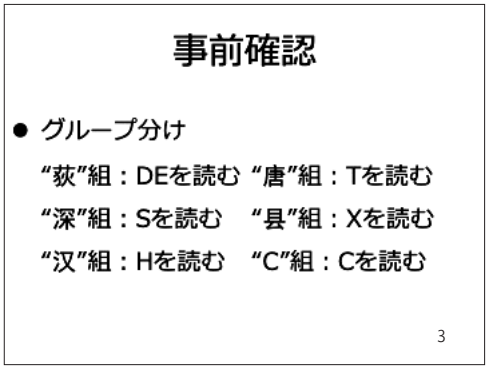
また、環境によっては、成績に入る試験をすることで意欲のスイッチが入る場合もあるかもしれない。そうした場合には、教員の側で辞書を読んで注目して欲しいような言葉のリスト（中国語のみ）を作成しておいて、その単語を辞書で見てみることを切り口にして辞書に触れさせるといった方法も考えられる。また逆に、教員が生徒の提出してきた単語を用いた教材を作成し、その教材を授業の中でうまく活用するという方法をとるならば、生徒にとってはみずから選定した単語の活きた使い方を学べると同時に、教員にとっては辞書引き学習の成果を正規の授業における一つの教材として組み込める可能性ともなるであろう。どのような方法で学習者

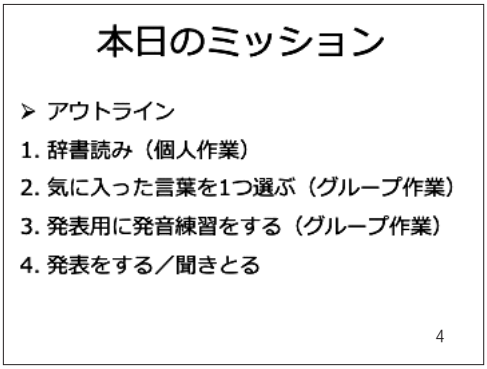
を辞書引きの活動に巻き込んでいくかは、各教育機関の事情によって異なってくることは当然であるが、汎用性の高い辞書引き導入パッケージを確立すべく実践を継続していきたい。

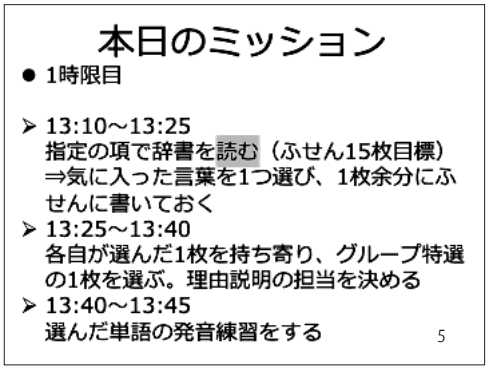
付録１　導入授業で使用したスライド

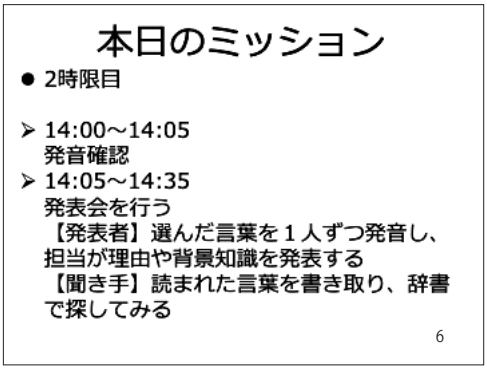












本日のミッション

- 辞書を読んでいくときの目の付けどころ
  ①形などが面白い字・言葉
  ②日本語と同じ字だが、意味の違う字や言葉　などなど。
- ◆同じピンインの親字に目を通す。
- 例：p83 甭 béng =不＋用
- 今回は、まず日本語と同形のものから探してみよう！

7

辞書引きと学習法

- 紙の辞書は引くだけのものではなく、読んで語彙を音声とともに構造化
  ☞音と漢字を結びつける／一覧性
- パーツの組み合わせで語彙が増加
  ☞他の言語・学問でも同じ
  【日中】不＋可能＝不可能
  【英語】im + possible = impossible

8

辞書引きと学習法

- 日本語で使われている漢字の意味やイメージと比較する
  ☞ 上
  【日】位置関係
  【中】位置関係・動詞・補語
- 電子辞書・ネット辞書でも応用できる部分はある ☞ 読むということ

9

辞書引きと学習法

- 何か気になる言葉・面白い字などがあれば、その字と同じ音の漢字の項目をすべて読むべし！ ☞ そして、ふせんを貼る！
- 友達と単語の出しっこをする／勝手に熟語を作ってみる ☞遊び感覚で辞書引きの継続
- もちろん授業で辞書を引いたときも！
- 単語帳はピンインから書く

10

辞書引きと学習法

- 日本語・英語などとの比較・対照
  ☞ 勉強法について考える⇒メタ言語能力
- たくさんやったほうが、使える部分は増える？

11

おわりに

1.ルーブリック
2.自由記述
3.単語提出

12

付録２　最終アンケートと自由記述

※前半グループ・後半グループをまとめて参与度の順にソートしてあります。
※個人情報が特定できる書き込みと欠席者のデータは削除してあります。
※記入されたものをそのまま修正などを加えず掲載してあります。

設問１．学校の「中国語」授業での、「辞書引き」活動への参与度
１ 非常に積極的に取り組めた／２ ある程度積極的に取り組んだ／３ どちらともいえない／４ あまり積極的に取り組めなかった／５ まったく取り組む気にならなかった

設問２．他教科や学校外での、「辞書引き」活動の応用や活用、参与度
１ 非常に積極的に応用・活用し取り組めた／２ ある程度積極的に応用・活用しようと試みた／３ どちらともいえない／４ あまり積極的に応用・活用しようとは思わなかった／５ まったく応用・活用しようとは思わなかった／応用・活用できることを知らなかった

設問３．辞書引き学習という活動が今後の学習や社会生活においてどのように役立つか／役立てていきたいかなどを中心に、辞書引きをやってみた感想を自由に書いてください。【自由記述／回答必須】

設問１．	設問２．	設問３．
1	1	わからない単語を調べるために辞書を引くと調べる目的ではない単語も知ることができたので、これからもわからない単語一つを調べるだけじゃなくて、その周辺の単語も見るようにしたいです。
1	1	同じ熟語でも日本語と意味が違うものが、辞書のページを１枚見るだけでもたくさん見付かって、中には信じられないような意味の単語もあって、稚拙な感想にはなりますが、すごい楽しかったです。辞書は返却してしまいますが、今後また辞書を所持する機会は必ずやってくるのでその際ここでの経験を活かせると確信しています。
1	2	辞書引きを行い沢山の中国語を触れることで、中国語に対する苦手意識がなくなった。辞書で単語を調べることで、似ている単語なども触れることができ、知識がより深まった。
1	2	自分自身、最近は本を読むことが減ったり、英語などの外来語が多く入ってきた影響で、難しい（新しい）日本語に触れる機会が少なくなったように思う。最初の辞書引きの後、日本語の辞書をさらっと見てみたが、自分が知らない単語や、普段使っているのとは違う使い方の語彙が沢山あり面白かった。
1	2	日本語の辞書よりも複雑な漢字が多く載っていて面白かった。また、中国語と日本語で字は同じでも意味が違う言葉を見るのが面白かった。

1	2	中国語の単語を探すなかで、日本語との違いについて触れることが出来て面白かったです。
1	2	今回の辞書引き学習を通して日常的に紙の辞書を使おうと思えた。インターネットに比べて補足的な情報が多く、中国語だけでなく英語などの教科にも活用していきたい。
1	2	自分で興味を持ったり、分からない単語に出会った時に、自ら辞書を引いて意味を知ることで、ただ授業で習ったり誰かから聞いたりするよりも納得し、記憶に定着すると思う。今後の学習でも積極的に利用していきたいなと思った。
1	2	辞書引き学習が終わった後でも中国語の辞書を利用することはあった。例えば期末テストの勉強では、ネットで調べてもうまく出てこない言葉などを調べるのに使った。その際に辞書引き学習は大いに役立ったと思う。
1	2	辞書を引くという行為には付属的に様々なメリットがあることがわかった。特に中国語の辞書は単語に関する文化や歴史などのコラムがついていたりして、単語の意味だけでなく中国についても詳しくなれると思うので、積極的に辞書引きを実践していきたいと思った。
1	2	今回の授業を通じて日常での辞書の使用機会が増え、探究心の向上に繋がったと思う。
1	3	中国語に限らないが、辞書の興味深さを知ると、本当に語学力を向上させたいときに辞書を見てみるという選択肢がしっかり頭の中にでると感じた。 英会話を毎日やっているが外国の人と話すとき、複数言語を知ってる人は話が弾みやすいのと、他言語との共通点や違って面白い点を共有でき、盛り上がるので言語を通じて文化を知ることができる。知る上で辞書は最適だった。
1	3	辞書引きでは、自分が興味ある分野から単語を学ぶことができた。教科書にはならないような角度での、より実践的な学習をこれからも続けていきたい。
1	3	辞書を引くという行為は、単に単語の意味を知ることだけでなく、その言葉ができた背景や、使われている字などからその国の文化を知れることが面白かった。家にある辞書をこれからはもう少し使っていこうと思った。
1	3	辞書を読むと言う概念が新しかったので新鮮だったが、文章や映像などで触れる中国語とはまた違ったので、辞書引きを通して中国語のルーツを学んでいこうと思いました。
1	3	言葉のより正確な定義やそれまで知らなかった意味などについて詳しく知ることができて、教養が深まる。他の事柄にも関連づけて知識の幅を広げることができる。
1	3	辞書はわからない言葉に出会ったときに調べるという受動的に使うイメージしかなかったのですが、今回の授業で、わからない言葉を自分で拾って学習するという能動的な使い方があることを知りました。自分が日本語を通して抱いている漢字や熟語のイメージとのギャップがあるのが中国語の面白さだなぁと感じました。大学では別の言語にも挑戦しようと思っているので、そこでも辞書引きをやってみようと思います。
1	4	網羅的に学習することは、自分が本来なら出会わなかった言葉や知識に出会えるため、良いと思いました。他の教科においても、網羅的に学習することで、興味のあるものを見つけていきたいと思いました。

1	4	将来の語学学習に役立てていきたい。
1	4	語句の意味を紙で調べることによって、言葉の語源がわかり、よりその言葉の意味を暗記しやすくなった。また関連する語句も一緒に覚えることができ、語彙力の向上につながった。漢字ばっかで嫌になる辞書かと思ったが、構図は理解できれば簡単で、調べることも難しくなかった。
2	1	中国語に限らず日本語の語彙力を向上させることに役立てられる。私は日本語に触れる機会が多くどの語彙を使えばいいか分からないといった状況になることもあるため、日本語の辞書引きをやってみようと思っている。
2	2	おもしろい単語を見つけられたときは楽しかった。課題は短時間で取り組めるもので苦痛ではなかった。
2	2	日本語の漢字と中国語の漢字を比べてみて、面白いなと思った点が多くあった。今回得た知識をちょっとした豆知識として実生活で披露する機会があればイイなと思った。
2	2	色々な中国語の悪口を知れて、とても面白かった。
2	2	中国語に限らず、辞書引きによる知識付けの大切さを改めて実感した。これからも分からないことはどんどん辞書を見てプラスアルファの知識をつけようと思う。
2	2	単純にその言葉の意味だけでなく、言葉の成り立ちなどの情報も知ることが出来たので、新しい単語を覚える上では最適だと感じた。
2	2	今はスマホでなんでも調べてしまう時代なので辞書引きというのはとても新鮮なものでした。紙の辞書で引くと、嫌でも自分が調べたいもの以外も目に入ってそれが学習につながるので、将来的には、これに準じて自分が目的としているもの以外にも目を向けるような視点を大切にしていきたいと思います。
2	2	辞書引き学習法は調べたかった単語の周りの単語まで視界に入るため、単語に触れる機会が多くなる。そのため、辞書引き学習法は、言語学習において単語量を増やせる良いアイテムだと考えることができた。
2	2	辞書引きをやって見て、辞書が自分が思っているよりも身近なものだと感じた。
2	2	今の時代意味を調べるときはネットに頼ってしまうが、辞書引きの授業を受けて辞書を引く大切さを知ることができた。辞書引きをすることで学習の内容をさらに深めることもできた。
2	3	色々な人の着眼視点がそれぞれ違っていて、面白かった。
2	3	辞書引きを行う上で、日本語にもある漢字が全く違う意味の中国語として出ていたのが一番驚きました。当然日本語の意味と同じ単語も沢山あったのですが、違うものは検討もつかないほど異なっており、面白く感じました。今後は分からない単語なども積極的に調べていきたいです。
2	3	辞書を読んでいると、嫌でも他の項目の説明が入ってくる。１つの知識、単語などのきっかけを中心に、傍系知識を増やすことの出来る取り組みだと感じた。
2	3	これから中国語だけでなく他の言語を学ぶ際にも辞書引きを使うことが出来ればより言語の習得がしやすくなると感じました。

2	3	中国語に限らず、辞書で言葉の意味を調べると、それに関連した語彙を芋づる式に見つけることができ、覚えることで表現の幅が広がって生活を豊かにすることができると感じた。普段知らない言葉を調べる時はスマートフォンに頼っているため、このような活動はとても新鮮だった。
2	3	今回辞書引きをして、初めて中国語の辞書を見ました。成り立ちや文化などの情報が書いてあり、面白かったです。
2	3	辞書引き学習を三年生になるまでその方法について学んでこなかったので、今回学習することが出来たのは自分の中でとても有意義なことのように思いました。今後とも中国語や、また他教科についても辞書引き学習を活用していきたいと思います。
2	3	紙の辞書を引くことでインターネットなどで調べるときには目に入ることのない言葉を見つけられたり成り立ちが分かるので、語彙が自然と広がっていくと思った。
2	4	言語学習のやる気が起きない時にその言語の楽しさを再確認できるよう活用したいと考えてます。
2	4	辞書引き学習という活動は大学生活にも応用できると思う。自分の知らない言葉があったら調べるという習慣は必要だと思う。また周りの語にも注意することで知識を増やせるので役に立つはずだ。
2	4	今後大学で英語や中国語以外にも違う言語を学ぶ機会があると思うが、そうした中で辞書引きから探した単語の周りに目を向けて派生した単語を見つけたりすることで語彙を増やしていくことなどに役立てていきたいと思う。
3	3	分からなかった所が一目瞭然で良かった。一方で、紙の辞書は重いので、基本的にはネットで調べることが多いと感じた。
3	3	中国語をアウトプットする際にとても辞書を使いたくなるので、日本語から中国語になおす辞書も、あれば使ってみたいなと思いました。
3	3	授業内では紙の辞書をメインで使用していたが、正直慣れるまでは使いづらいという印象だった。ある程度の説明があったからこそ取り組めたものの、自主的に行うには少しハードルが高いように思う。
3	3	中国語の学習をしていく中でわからない単語に出会うことは非常に多いのでわからないままで済ますのではなく自主的に今回の辞書引き活動で学んだことを活かせればと思います。

付録３　JB 日記フォーマット

第（　）週　　月　　日（　）～　　月　　日（　）　　年　　組　　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿

【JB（辞書引き）日記】辞書引きをしたら、付箋の枚数（それまでの合計枚数）を書き、どんな単語（言葉）に出会ったか、どんなことを学んだかを、４～５行程度（80～100字程度）で書いておこう。

月　　日（　）合計　　枚	月　　日（　）合計　　枚
月　　日（　）合計　　枚	月　　日（　）合計　　枚
月　　日（　）合計　　枚	月　　日（　）合計　　枚
月　　日（　）合計　　枚	月　　日（　）合計　　枚
月　　日（　）合計　　枚	月　　日（　）合計　　枚

註

※すべてのURLの最終確認日は、2022年２月16日である。

[1] 例えば、各語種に関して以下のようなサイトがある。
【ドイツ語】岩手大学人文社会科学部 川村和宏研究室
https://iwate-de.org/2019/06/12/辞書の選び方（入門編）/
【フランス語】上智大学外国語学部フランス語学科
https://dept.sophia.ac.jp/fs/french/about_us/st_report/辞書とお友達になる方法/
【中国語】駒澤大学総合教育研究部
https://www.komazawa-u.ac.jp/academics/faculty/sougou/language-second/useful/chinese-dictionary.html

[2] 例えば次の「三省堂 英語教育リレーコラム」では、辞書を読むことが強調されているが、どう読めばよいのかについては詳しい記述はなく、「辞書引き学習」も紹介されているが、「読む」のではなく「引く」ことに焦点が当てられてしまっている。
https://tb.sanseido-publ.co.jp/english/column/relay_bc/20061212.html

[3] 辞書引き学習についての文献としては、主に以下のようなものがある。
深谷圭助「自ら学ぶ力を育てる国語辞典の活用法」『教育愛知 第32回教育研究論文特集号』第46巻・増刊15号（愛知県教育委員会、1999年）、pp.6−17
深谷圭助『小学校１年生で国語辞典を使えるようにする30の方法』（明治図書、1998年）
これ以外にも、辞書引き学習の案内書が、近年まで複数出版されている。

[4] 海外での取り組みついては、例えば英国の小学校での実践について、以下のような研究発表も行っている。
FUKAYA Keisuke, YOSHIKAWA Tatsuo, WANG Linfeng. “Japanese ‘Jishobiki’ from British teacher’s interpretation”. WALS 2021（online／口頭発表）. 2021年11月. The World Association of Lesson Studies（WALS）

[5] 辞書引き日記は、日々の辞書引き活動を記録するもので、日付と見つけた単語やその意味を記入するものである。文末の資料を参照。

[6] Quizlet
https://quizlet.com/latest

[7] 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（2018年）、p.20
https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf

[8] 中国語のネイティブスピーカー・ニアネイティブスピーカーにとっての中日辞典という視点は、日本語母語話者における国語辞典と同じような位置づけになり、最上級者向けの教授法という文脈で、辞書引き学習を採り入れた活動を検討することも可能であると考えている。

※本研究は、2021年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（B））「複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルの開発に関する国際比較研究」（代表・深谷圭助／課題番号：20H01294）、および2021年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「パフォーマンス評価に基づく外国語オンライン教育の高大連携および国際協働による研究」（代表・吉川龍生／課題番号：21K00684）による共同研究の成果の一部である。